

魅力ある第三学区市立高校の創造に向けて

[第三学区市立高校基本計画検討会報告書]

平成 18 年 3 月

第三学区市立高校基本計画検討会

目 次

はじめに	1
I 第三学区市立高校教育改革の経過について	2
1 国の教育改革の動向	2
2 第三学区を取り巻く状況	2
3 市立高校教育改革の流れ	3
II 須磨高校・神戸西高校の状況について	7
1 学校の概要	7
2 須磨高校の教育活動の現状と課題	8
3 神戸西高校の教育活動の現状と課題	9
III 第三学区市立高校教育改革に向けて	12
1 現状の課題	12
2 改革の方向性	12
IV 魅力ある学校づくりを目指して	13
1 新高校のコンセプト＜人・社会・希望につながる学校＞	13
2 教育目標	13
3 教育システム	14
4 特色ある教育内容	16
5 豊かな教育環境の実現	18
おわりに	19

資料

はじめに

少子高齢化や情報化等の進展によって、教育を取り巻く社会情勢は大きく変化している。こうした時代の変化に対応するため、全国で高校教育改革が行われている。

神戸市においては、平成 4 年に「神戸市教育懇話会」を設置し、21 世紀に向けて、望ましい市立高校の将来像について検討を行った。

神戸第三学区の市立高校については、平成 12 年の「市立高校の将来像調査研究会」や、平成 14 年の「須磨高校・神戸西高校在り方検討会」で議論されたが、具体的な高校教育改革の構想を打ち出すところまでには至らなかった。

この間も、第三学区の少子化傾向は著しく、依然として生徒数の減少が続いており、学校の活力にも影響が出始めている。また、校地面積が狭いことや施設の老朽化等も顕著で、一刻も早い高校教育改革が待ち望まれている。

そこで、昨年「第三学区市立高校基本計画検討会」を設けて、これまでの議論を踏まえながら、現状を把握するとともに今後の方向性について議論し、新しい学校づくりについて検討を進めてきた。その内容をまとめたものが本報告書である。

改革の具体化にあたっては、生徒中心の視点を忘れず、関係者が十分に話し合い、魅力ある市立高校が一日も早く創設されるよう、この報告書が活用されることを願うものである。

平成 18 年 3 月

第三学区市立高校基本計画検討会

座 長 大 脇 康 弘

I 第三学区市立高校教育改革の経過について

1 国の教育改革の動向

文部科学省は、臨時教育審議会の最終答申(昭和 62 年)や中央教育審議会の答申(平成 3 年)などを受けて、量的拡大から質的充実へ、形式的平等から実質的平等へ、偏差値偏重から個性尊重・人間性重視へという視点から高校教育改革を進めてきた。その具体化として、高等学校設置基準を改正し、第三の学科「総合学科」を制度化した。また全日制課程での単位制高校や中高一貫教育校などの設置も可能になった。その結果、全国的にこれらの新しいタイプの学校が、多く設置されるようになってきた。

その後、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、「生きる力」の育成をねらいとした平成 11 年の学習指導要領では、「授業時数の削減」や「総合的な学習の時間」などが盛り込まれた。平成 14 年には完全学校週五日制が実施された。一方、国際的な教育調査や平成 13 年度教育課程実施状況調査等では、児童・生徒の学習内容の理解などについて課題が明らかになった。そこで、平成 15 年には学習指導要領が一部改正され、現在「確かな学力」、「生きる力」の育成について指導の一層の充実が求められている。

2 第三学区を取り巻く状況 (資料①～④参照)

(1) 少子化による生徒数の減少

第三学区は、須磨区・垂水区・西区と長田区の一部を含む広い範囲を通学区域としている。学区内には市立中学校が 37 校あり、平成 17 年 5 月現在の市立中学校 3 年生の在籍者数は約 6,200 名である。約 9,600 名であった平成元年に比べると、約 3,400 名(約 35%)も減少したことになる。今後も、第三学区における生徒数の減少傾向は継続していくものと思われる。

なお、平成 17 年 4 月に、第三学区の市立中学校から全日制高校へ進学した者は約 6,200 名で、その進学先は県立高校(明石市立明石商業高校を含む)約 62%、市立高校 約 7%、そして私立高校 約 31%となっている。

(2) 県立高校の動向

兵庫県教育委員会においては、「全日制高等学校長期構想検討委員会(平成10年～平成11年)」の提言を受けて、「県立高等学校教育改革第一次実施計画(平成12年～平成20年)」を発表し、改革の具体化が進められてきた。

第三学区においては、平成14年に北須磨高校が普通科単位制に、また須磨友が丘高校が総合学科に移行され、さらに同年、舞子高校に環境防災科が新設された。

神戸市内の全日制県立高校は20校であり、内訳は普通科高校16校、商業高校1校、工業高校1校、総合学科高校2校となっている。このうち第三学区の全日制県立高校は10校であり、内訳は普通科高校8校、商業高校1校、総合学科高校1校となっている。かつて昭和40年代半ばには、第三学区の公立高校は県立高校3校、市立高校2校であったが、その後のニュータウンの開発により生徒数が増加し、次々と県立普通科高校が新設されていった。

(3) 市内私立高校の動向

神戸市内には、私立高校は25校あり、内訳は普通科高校24校、商業高校1校となっている。このうち第三学区の私立高校は9校あり、内訳は普通科高校8校、商業高校1校となっている。

私立高校においても、多様化する生徒・保護者のニーズに応え、様々な工夫を凝らしながら改革が進められている。

3 市立高校教育改革の流れ

(1) 市立高校教育改革の取り組み

神戸市教育委員会では、少子高齢化・情報化など大きく社会情勢の変化が予測される21世紀に向けて、望ましい市立高校の将来像を検討するため、平成4年に「神戸市教育懇話会」を設置した。

神戸市教育懇話会からの報告書「神戸市立高等学校の将来を考える」(平成6年)では、市立高校の将来像について、普通科・専門学科・定時制のそれぞれについて魅力ある高校教育改革の提言がなされた。

改革を具体化させるため、その先導的役割を担う学校の創設をめざす「新構想高校検討委員会」が設置され、第三学区での実現を目指して検討されていたが、年が明けた平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災により、新高校の設置場所は被害が著しい第一学区に変更された。

その新高校の構想は、平成10年に赤塚山高校と神戸商業高校を再編・統合し、六甲アイランド高校の誕生という形で具体化された。また、引き続き平成13年には葺合高校に国際科を新設し、平成16年には工業高校を再編・統合し、新しいタイプの総合型工業高校として科学技術高校・神戸工科高校が誕生した。さらに、平成17年には六甲アイランド高校が単位制に移行した。

(2) 第三学区市立高校教育改革の流れ

第三学区に関しては、次のような改革に関する検討や取り組みが行われてきた。

① 市立高校の将来像調査研究会(平成11年～平成12年)

神戸市教育懇話会以後の状況変化や新たな制度改革を視野に入れながら、市立高校の個性化や多様化などについて調査研究を行った。

(議論のとりまとめより抜粋)

- ・ 第三学区について、知識偏重の教育から、基礎・基本を重視しつつ、より実生活に根付いた内容の学習や人間尊重の心を育む教育への転換が必要。
- ・ 福祉や健康に関連する身近な素材を中心に学習できる総合学科高校、または普通科総合選択制(社会福祉系列、健康スポーツ系列、人間科学系列、生活科学系列)として特色化を図っていくことも視野に入れておくことが必要。

② 類型の導入(平成13年～平成14年)

須磨高校・神戸西高校においては、これまでの検討内容を踏まえて、教育の特色化を進めるため学習の類型^{注)}を設定した。須磨高校では、

平成 13 年に「人文」「国際コミュニケーション」「情報・環境」の 3 つの類型を設け、神戸西高校では、平成 14 年に「医療福祉」「体育福祉」「人文科学」「情報経営(平成 17 年より廃止)」の 4 つの類型を設定した。

注) 類型とは、生徒の興味・関心を高めるために設置された進路の方向性や専門性を持つ科目の集まりをいう。両校では、2 年生から類型に分かれて学習を行う。

③ 須磨高校・神戸西高校在り方検討会(平成 14 年)

須磨高校・神戸西高校を更に発展させるため、望ましい学校の在り方について議論を深めた。

(「須磨高校・神戸西高校在り方検討会たより」より抜粋)

- ・中学校では、生徒が高校を選ぶ時代になってきている。高校は魅力のある情報を的確に伝えていくことが大切である。
- ・類型学習の実施は現段階で精一杯の努力である。これらをさらに発展させようとするハード的な問題など多くの課題に直面する。
- ・福祉や情報の授業を計画しても、教室やコンピュータの数が不足している。現実にはハード的な制約が大きすぎる。
- ・須磨高校と神戸西高校を足して 2 で割るような学校ではいけない。新しい学校像を考えたい。
- ・仮に須磨高校と神戸西高校を再編して新しい学校を創るとすれば、両校の類型をさらに研究し、発展させていくのがよいのではないか。

④ 新しい入学者選抜(入試)制度の導入(平成 15 年)

兵庫県教育委員会の入試制度改革により、平成 15 年から第三学区に第一志望・第二志望校をあらかじめ受検生が選び、入学先は検査成績で決まる複数志願選抜が導入された。また同時に、特色づくりが進んでいる学校については、生徒の個性や校外での活動などを評価対象とする特色選抜の制度も創設された。

このことから、複数志願選抜による入試が実施されることに加え、須磨高校・神戸西高校では、類型による教育の特色化を図っていたことか

ら特色選抜による入試もあわせて実施した。

これらの入試制度は、現在も引き続き実施している。

Ⅱ 須磨高校・神戸西高校の状況について（資料⑤、⑥参照）

1 学校の概要

(1) 須磨高校

須磨高校は、大正 11 年に神戸市立第二高等女学校として開校し、昭和 24 年に学区制及び男女共学制の実施により、全日制普通科として現在の校名に変更された。その後、家庭科(被服課程)が設置されるとともに、昭和 30 年には現在地(須磨区若木町)に移転した。なお、家庭科は昭和 50 年に廃止された。

現在地は、第三学区の南東部に位置し、最寄り駅は山陽電鉄東須磨駅または月見山駅である。

現在のクラス数は、少子化による生徒数の減少で、平成 17 年度から 1 クラス減り 1 学年 7 クラスから 6 クラスとなっている。

現在の施設・設備については、全体的に老朽化が進み、校地面積も狭く、教育活動に影響が出ている。

(2) 神戸西高校

神戸西高校は、昭和 23 年に定時制の神戸市立西神高等学校として開校し、農業科と家庭科を設置した。昭和 36 年に現在地(西区平野町慶明)に移転し、昭和 38 年に現在の校名に変更されるとともに全日制普通科を設置し、さらに昭和 40 年には園芸科が新設された。その後、昭和 41 年には定時制課程が、また昭和 51 年には園芸科が廃止になり、現在に至っている。

現在地は、第三学区の北西部に位置し、自転車で通学する生徒のほか、地下鉄西神中央駅や J R 明石駅からバスを利用する生徒も多い。

現在のクラス数は、少子化による生徒数の減少で、平成 17 年度から 1 クラス減り 1 学年 6 クラスから 5 クラスとなっている。

現在の施設・設備については、須磨高校と同様に傷みが進んでおり、校地の形状の問題や面積の狭さもあって、教育活動に影響が出ている。

2 須磨高校の教育活動の現状と課題

須磨高校は、教育目標に「規律ある生活の確立」、「学力の充実」、「進路の追求」、「自主的活動の振興」を掲げ、80年の歴史を積み重ねる中で、学力の充実と個性の伸長をめざす教育に取り組んできた。

特色ある教育活動として、明確な目標ある学校生活を送ることを目的とした「進路プラン」学習や、須磨をテーマとした課題・探求学習「須磨学」がある。また、留学生の受け入れや、国際コミュニケーション類型の生徒を対象とした英語学習「サマーセミナー」を実施するなど、国際理解教育にも積極的に取り組んでいる。

部活動では、体操部は全国レベルで活躍しており、また、放送部も良い成績を残しているが、生徒数の減少により部活動の運営に影響が出ている。

さらに、生徒の興味・関心・適性に応じ、より目的意識を持って進路実現に向けた学習が可能となるよう、2年次から3つの類型を設けている。

以下において、特に類型、進路及び課題について述べる。

(1) 類型

3つの類型の進路目標としては、「人文類型」は主として大学進学を、「国際コミュニケーション類型」では語学を生かした進路を、さらに「情報・環境類型」では理系・情報系・看護系・生活系などへの進路を目指したものとなっている。

各類型の特色を生かした進路を実現させるために、多くの学校設定科目を置き、生徒自身に独自の時間割を作らせ、意欲的な学習活動を促している。しかし、生徒数の減少により類型を中心とする教育活動に影響が出ている。

類型選択の現状としては、自分のやりたいことを見つけ学校生活を生き生きと過ごす生徒がいる一方、自己の進路についての目的意識が薄く安易な類型選択や科目選択に流れる生徒も少なからず見受けられる。

(2) 進路

須磨高校では、様々な進路希望を持つ生徒が在籍している。平成 17 年 3

月卒業者の主な進路状況として、大学・短大への進学 39%、専門学校への進学 24%、就職 12%、その他が 25%であった。

進学については、例年、進学先は文系・芸術系・看護系・理美容系など幅広い分野にわたり、進学者の多くは推薦入試で決める傾向にある。就職については、求人数が減少を続けたこともあり就職者数は減少の傾向にある。そのほか、フリーター希望など進路を決めずに卒業していく生徒は増加の傾向にある。

(3) 課題

以上のように、多様な進路希望を持つ生徒がいる中で、類型を導入し、生徒の興味・関心を高めるカリキュラムを編成した。

しかし、生徒の進路選択に類型が十分に生かされていない面や、類型選択や科目選択の際に、安易な理由での選択も見受けられるため、これらの課題の解決に向けてカリキュラムの見直しを進めつつあり、同時に学力の定着・伸長を図ることも考えている。

また、進路未決定者など自己の進路について目的意識が薄い生徒が多くみられる状況を考えると、学習の様々な場面で、キャリア教育^{注)}を視野に入れた取り組みも必要となってくる。更に、就職希望生徒に対しては、より確かな目標を持たせるために、きめ細やかな対応と積極的な資格取得の方策を検討する必要がある。

注) キャリア教育とは、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」
(平成 17 年 5 月 文部科学省「キャリア教育の推進に向けて」より)

3 神戸西高校の教育活動の現状と課題

神戸西高校は、教育目標に「基礎学力の充実」、「生活規律の確立」、「自主活動の振興」、「進路指導の徹底」を掲げ、きめ細やかな学習指導と学力の定着・伸長を目指した教育を行っている。

特色ある教育活動としては、福祉・ボランティアの精神を育むために、全校

生徒に社会福祉基礎を学ばせるとともに、実習・体験学習にも積極的に取り組んでいる。また、校外での福祉活動やボランティア活動などで活躍する生徒も増え、活動時間数により単位として認定している。

部活動では、和太鼓部やレスリング部が全国レベルで活躍しており、また野球部・バスケットボール部なども良い成績を残しているが、須磨高校と同様に生徒数の減少により部活動の運営に影響が出ている。

以下において、須磨高校と同様に類型、進路及び課題について述べる。

(1) 類型

3つの類型の進路目標としては、「医療福祉類型」は理系・看護系の進路に加え、理学療法士や作業療法士などを目指す医療技術系の進路を、「体育福祉類型」は大学の体育学部や福祉関係の進路を、さらに「人文科学類型」は英語・国語を中心に学習し、幅広い進路を目指したものとなっている。

各類型の特色を生かした進路を実現するために選択科目を置き、生徒自身に時間割を作らせ意欲的な学習活動を促している。しかし、須磨高校と同様に生徒数の減少により、類型を中心とする教育活動に影響が出ている。

類型選択や科目選択の際に、入学時から類型を決めている生徒がいる一方、安易な理由で選択をする生徒も見受けられる。

(2) 進路

神戸西高校でも須磨高校と同様に、様々な進路希望を持つ生徒が在籍している。平成17年3月卒業者の主な進路状況として、大学・短大への進学29%、専門学校への進学32%、就職31%、その他が8%であった。

進学については、例年浪人する生徒は少なく、「入れる大学」を選ぶという生徒の志向がみられ、進学者の多くは専門学校も含め、推薦入試によって進路を決めている。「医療福祉類型」や「体育福祉類型」は、資格取得などを目指して専門学校へ進学する生徒が多く、「人文科学類型」の進路先は多岐の分野にわたっている。就職では、フリーターを減らす取り組みを行い、例年に比べて就職者数が増加した。そのため、進路未決定者を含むその他が減少した。

(3) 課題

福祉など特色ある教育活動において、充実した授業や資格の取得を進めるうえで、設備の不足やより専門的な知識・技能を有する指導者が不足している。その解決に向けて、学校外の施設・人材の活用を図るなど、新たな取り組みが課題となっている。

類型選択や科目選択の際の安易な選択を無くすため、また、中途退学生徒やフリーター希望者をより少なくするためにも、早くから自らの進路について考える機会や進路に関する情報などを、よりの確に提供できる取り組みが必要である。このため、神戸西高校では学力の一層の定着・伸長を図るとともに、須磨高校と同様にキャリア教育を視野に入れた取り組みが求められている。

Ⅲ 第三学区市立高校教育改革に向けて

1 現状の課題

須磨高校・神戸西高校においては、少子化によって生徒数が減少してきており、類型を中心とした教育活動や部活動の運営に影響が出ている。さらに、少子化が今後も続くことを考えると、教員数の減少もあり、学校活力の低下や教育活動の停滞が懸念される。

教育の特色化として導入された類型により、多様な進路希望を持つ生徒に対応したが、現状の普通科における類型で設置できる科目では十分な対応ができていないことも懸念される。

また、自己の進路について明確な目標を持たない生徒や安易な科目選択を行う生徒の問題、進路選択に類型が十分に生かされていないことから類型と進路先の関係が薄いことなど、現状での類型による対応の難しさがあり、一層充実したキャリア教育が求められる。

加えて、従来から校地面積の狭さや施設の老朽化なども課題となっている。

2 改革の方向性

須磨高校・神戸西高校の課題を踏まえると、現在の地でさらなる発展を目指すことやどちらかの地で統合することは、校地面積などから見ても難しい状況にある。

従って、今後の改革の方向性としては、両校を再編・統合し、新たな場所に新しい高校を設置することが望ましいと考えられる。

新しい学校は、両校の教育内容をただ単に合わせるのではなく、両校の実績や伝統を大切にしながらも、他の神戸市立高校にない新たな発想による魅力ある学校の創造が必要であると考ええる。

そこで、新しい学校づくりの展望について次の章で検討を行う。

IV 魅力ある学校づくりを目指して

魅力ある学校づくりの基本的な枠組みとして、まず、「新高校のコンセプト」について考え、続いて「教育目標」、「教育システム」、「特色ある教育内容」を検討し、最後に「豊かな教育環境の実現」について検討を加えた。

1 新高校のコンセプト＜人・社会・希望につながる学校＞

須磨高校・神戸西高校における生徒の多様な進路状況や、一部生徒の進路に対する目的意識の薄さなどの実情を踏まえると、新高校の教育においては、生徒自身が主体的に進路希望を実現し、確かな目標をもって日々を過ごすための充実した「キャリア教育」が必要であると考ええる。

そのため、新高校では生徒の進路実現のために不可欠な「学力」の定着・伸長を図るとともに、「キャリア教育」の観点から人、地域、企業、教育機関などと積極的に「連携」し、体験的学習や実習に重きを置いた教育活動を行うことにより、コミュニケーション能力の育成や実践力を養う教育を目指すこととする。また、学力の定着・伸長には、基礎・基本を重視しつつ学校をあげての徹底した学習指導が望まれる。

以上、新高校では、確かな目標を持ち社会に参画・貢献できる人材の育成を目的とし、人との関わりや社会への参画・貢献、希望の実現などをねらいとして、＜人・社会・希望につながる学校＞を新高校のコンセプトとして考えた。

2 教育目標

コンセプトの実現に向けて、前項で述べた「キャリア教育」、「学力」、「連携」に、人として大切な「こころ」の教育を加えた4項目を教育目標として考えた。

教育目標 「充実したキャリア教育」
「徹底した学力の伸長」
「積極的な地域連携」
「こころの教育」

これらの教育目標を達成することにより、「確かな進路目標をもち、その実現に努力する生徒」や「豊かな知性と実践力をもつ生徒」、「社会に参画し、貢献する生徒」、「人とのつながりを大切にする生徒」が育成されることが考えられる。

3 教育システム（資料⑦参照）

前述の教育目標を実現するためには、教育システムが重要であり、学科形態や進路への方向性を明確に示すことが大切な要素となる。また、須磨高校・神戸西高校の生徒に見られるような多様な進路希望に対応することも考慮に入れ、学科形態を中心に検討を行った。

(1) 学科形態

高等学校の学科は、普通教育を主とする「普通科」、専門教育を主とする「専門学科」、普通教育及び専門教育を選択しながら総合的に学習する「総合学科」の3つの形態がある。

そして、平成5年から、定時制課程に加え全日制課程でも選択履修を中心とした単位制の設置が可能になり、全日制普通科高校でも単位制の形態をとる学校も設置されるようになった。それをここでは単位制(普通科)と呼ぶ。

前述した須磨高校・神戸西高校の共通課題として、類型では設置できる科目が十分でないこと、明確な目標を持たない生徒や安易な科目選択を行う生徒の問題、類型と進路先の関係が薄いことなど、普通科での類型による対応の難しさが指摘された。

また、両校の類型を発展させ、普通科に加えて新たな専門学科を設置することも検討したが、これまでの専門教育の実績や学科の将来的な安定性、多様な進路への対応などを総合的に考え、難しいという判断をした。

そこで、確かな目標を持たせ、多様な進路希望に対応するために、多くの選択科目が設置可能な新しいタイプの学科形態である、単位制(普通科)と総合学科について比較検討を行った。

(2) 単位制(普通科)と総合学科

単位制高校は、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高校で、生徒の個に応じた教育を推進するため、生徒の選択幅を拡大することが趣旨となっている。

単位制(普通科)は、普通教育を中心に選択科目を多数設け、進学に重点をおいた進路実現や自分の興味・関心等に応じた科目を選択し学習できることが特色となっている。

進学に対して明確な目標を持つ生徒には、主体的に進路希望や興味・関心に対応する科目を選択できる点がメリットとなる。

総合学科高校は、普通科及び専門学科と並ぶ第三の学科として、平成6年度から制度化された原則単位制の学校で、専門科目も含めた多様な選択科目を開設することができる。

総合学科では、例えば社会福祉基礎、英語表現、理数化学、マーケティングのような専門科目を含む幅広い選択科目の中から自分で選択し学ぶことが可能で、進学をはじめ多様な進路希望に対応できる点がメリットである。

また、キャリア教育を学科の理念として持っており、生徒の個性を生かした主体的な学習や、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視していることが特色となっている。

(3) 学びの方向性

新高校では、将来の確かな目標を持たせうえて、進路への方向性を明確に示すことにし、それを学びの方向性とした。

① 学びの方向性設定の観点

新高校の学びの方向性は、コンセプト・教育目標に沿ったもので、具体的な進路がイメージできるものを設定し、方向性が散漫にならないようにする必要がある。

また、多様な進路希望に対応するとともに、須磨高校・神戸西高校がこれまで取り組んできた類型の成果も参考にする。

② 学びの方向性の例

生徒の多様な進路希望に対応するが、前述①のような観点に立って、「文系等」、「理系等」、「福祉・健康等」、「経営・メディア等」の4つを学びの方向性の例として考えた。

- ・「文系等」は、教育・文学・社会学・語学・歴史系等への進路を示している。
- ・「理系等」は、理工・薬学・看護・医療技術系等への進路を示している。
- ・「福祉・健康等」は、社会福祉・介護福祉・社会体育・保育・栄養系等への進路を示している。
- ・「経営・メディア等」は、経済・経営・税務・起業・マルチメディア系等への進路を示している。

(4) 望ましい学科形態

これまで、個性を重視し主体的に多様な選択が可能となる学科形態と考えられる学びの方向性について検討してきた。

新高校の学科形態としては、普通教育を中心とした単位制と多様な進路希望や興味・関心に対応しやすい総合学科が考えられる。新高校のコンセプト、須磨高校・神戸西高校のこれまでの実績や生徒の実態、学校運営面、さらに市立高校として多様な学科形態の学校を設置し市民に幅広い教育の選択肢を提供するという視点も考慮すると、まず、総合学科を前提に検討することが望ましいと考えられる。

4 特色ある教育内容（資料⑧、⑨参照）

キャリア教育をはじめとする教育目標を達成するために、体験的学習や実習を積極的に取り入れた特色ある教育内容について次のように考えた。（ ）内はその取り組みの例である。

① 明確な目標を持たせる

将来を考えた長期的な目標や短期的な実践目標などについて、主体的に段階を追って歩める進路目標を持たせる。

(フューチャープラン「未来設計図」の作成、就業体験、卒業生による進路講話など)

② 学力の定着・伸長と進路の実現

生徒それぞれについて、学力の定着・伸長を図り希望進路を実現させる。

(学力定着プランに基づく学習計画の作成、適切な科目選択指導など)

③ コミュニケーション能力と実践力の育成

人と人とのつながりを大切にするコミュニケーション能力を育成し、社会に貢献するための実践力を養う。

(小学校・中学校・大学などとの連携、地域や企業との連携など)

④ 福祉・ボランティア精神の育成

教育目標の「こころの教育」を実現するために、福祉やボランティアに関する科目を検討し、地域社会で実践する。

(1年全員が履修する科目の設置や校外での活動など)

⑤ 近隣の企業や教育施設などとの積極的な連携

積極的に地域と連携し、地域の核となる学校として位置づけられるような取り組みを検討する。また、大学や中学校などの教育施設との連携に積極的に取り組み、継続性のある教育活動を検討する。

(図書館などの学校施設の開放や情報機器を使った講座など)

⑥ 神戸の産業や観光と結びついた教育

神戸について学び、神戸市民の一員としての意識を高め、地域社会へ貢献できるような生徒を育成する。

(神戸について学ぶ学校設定科目の設置や研究発表の場を設けるなど)

⑦ 資格取得

意欲ある学校生活を目指して、資格取得に積極的に取り組む指導の充実。
(福祉に関する資格、漢字検定や英語検定、情報処理検定など)

なお、新高校のコンセプトである〈人・社会・希望につながる学校〉という視点からの取り組み例を資料⑧に掲げている。

5 豊かな教育環境の実現

これまで教育システムや教育内容について検討してきた。魅力的な高校を創るため、重要な柱のひとつである教育環境について、最後に検討を加えた。

(1) 立地について

須磨高校・神戸西高校を再編・統合し新高校を設置する場所については、教育活動に必要な校地面積を持ち、交通至便の地で、各種の教育施設、福祉施設、企業などと連携しやすい場所であることが強く望まれる。

神戸市の財政状況を考えると、市有地の有効活用も念頭に置く必要があり、神戸市の所有地で幾つかの検討も行ったが、地下鉄名谷駅の近くにある神戸工業高校跡が、なかでは最も現実的で検討に値する適地であると考えられる。

なお、今後も情報収集に努め、よりよい適地があれば検討を続けていくことが望まれる。

(2) 施設・設備について

新高校を魅力ある市立高校とするためには、キャリア教育を中核とした教育目標や体験的学習・実習などを積極的に取り入れた教育内容の実現が必要であり、そのための施設・設備の充実が欠かせないものである。また、生徒の豊かな学習環境や生活環境を創り出す施設・設備の充実も必要であり、部活動のための施設・設備についても同様である。

また、地域の核となる学校を目指すためには、施設開放や地域向け講座を開講するなど、市民も利用できる施設・設備の設置も望まれる。

おわりに

本検討会では、少子化による学校活力の低下をはじめとして、生徒の多様な進路希望への対応やキャリア教育の重要性、校地面積の狭さ、施設の老朽化など、多くの課題が出された。

第三学区における市立高校の在り方として、須磨高校・神戸西高校を再編・統合し、新たな地で新しい学校としてスタートすることが望ましいとの結論を得た。

検討会で議論したコンセプトや学科形態、教育内容等のテーマについては、その原案を作るために作業部会を設けた。

作業部会の委員の先生方には、多忙な校務の間を縫って、計8回にも及ぶ中身の濃い熱のこもった議論を行っていただいた。報告書の末尾にはなったが、そのご苦勞に対し感謝を申しあげたい。また、報告書では議論のすべてを取り上げることはできなかったが、今後の教育内容の詳細を検討する際の参考としていただきたい。

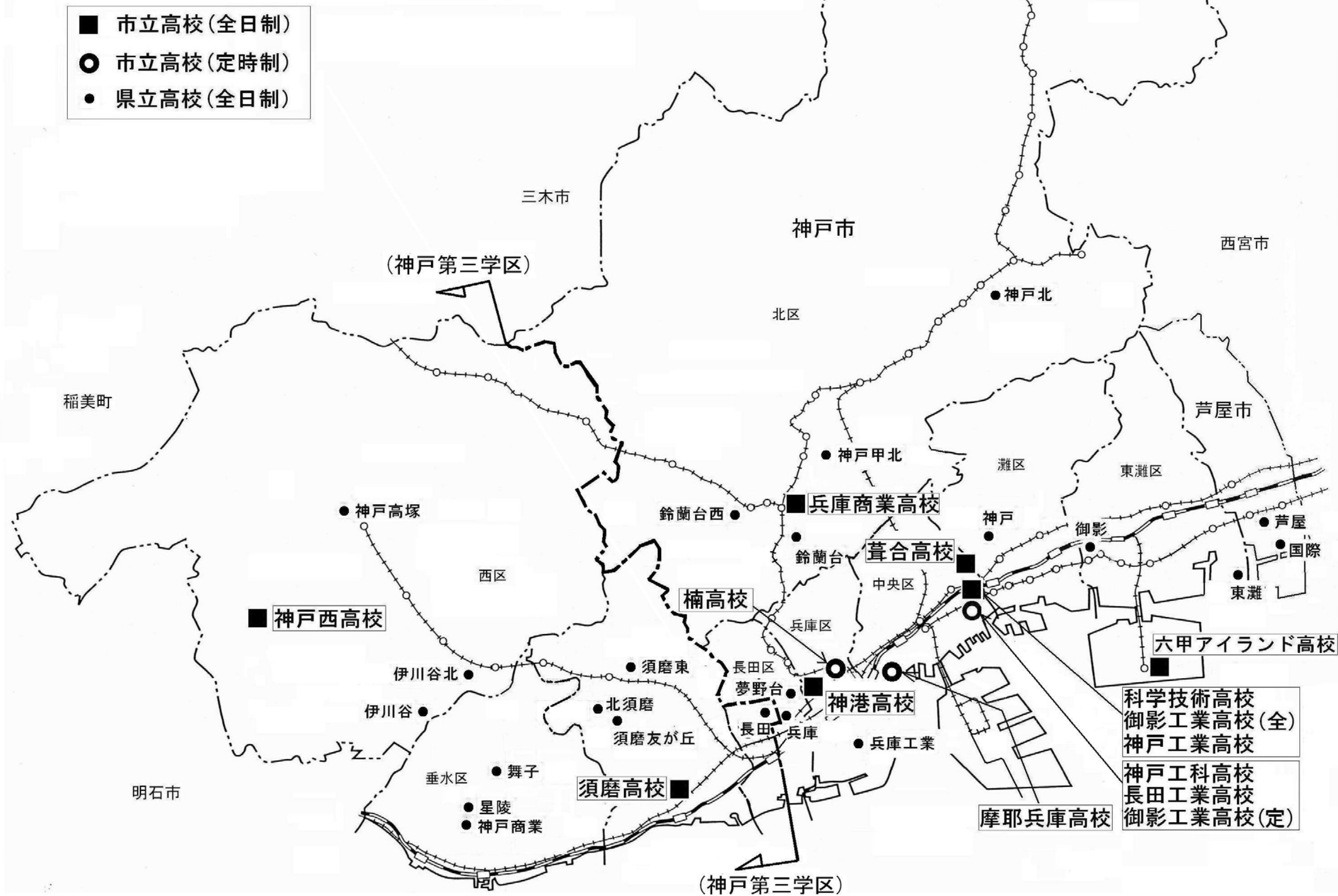
これまでに他都市での高校教育改革に携わってきた経験から、改革の成功には意欲ある教職員集団が大きな原動力となっている例が多く見られる。神戸市においても、検討会での議論を踏まえ、教育委員会をはじめ、市立高校あげての支援体制が必要と考える。

最後に、開校時期を明記していないが、神戸市の厳しい財政状況を踏まえても、両校の状況を考えると一刻も早く取り組みを始めていただき、＜人・社会・希望につながる学校＞が第三学区で早期に創設されることを強く祈念する。

資 料

①	市内の公立高校配置図	1
②	市立高校の概要	2
③	第三学区県立高校（全日制）の概要	3
④	第三学区中学卒業生数推計	3
⑤	須磨高校・神戸西高校の概要	4
⑥	須磨高校・神戸西高校における類型選択の現状	5
⑦	普通科・単位制(普通科)・総合学科の比較表	5
⑧	「つながる学校」の取り組み例	6
⑨	学力定着に向けた3年間の流れ（例）～学力定着プラン	6
⑩	第三学区市立高校基本計画検討会設置要綱	7
⑪	第三学区市立高校基本計画検討会委員名簿	8
⑫	第三学区市立高校基本計画検討会の活動記録	9
⑬	「魅力ある第三学区市立高校の創造に向けて」報告書概要	10

① 市内の公立高校配置図（平成17年度）



② 市立高校の概要（平成 17 年度）

学 校 名	課 程	学 科	クラス数 (1/2/3/4)	学 区	校地面積	設置	沿 革
六甲アイランド [*]	全日制	普通科 単位制課程	9/9/10	1 芦	45,975 m ²	H10	M45 市立高女 T12 市立第三神港商業
葺合	全日制	普通科 ----- 国際科	5/5/5 2/2/2	1 芦 全 県	28,501 m ²	S26 ----- H13	S14 市立神戸中
神港	全日制	普通科 ----- 商業科 ----- 情報処理科	3/3/3 3/3/3 1/1/1	2 1,2,3 全 県	18,843 m ² 第 2 グラント [*] 26,940 m ²	S24 ----- S24 ----- S60	M40 私立神港商業
須磨	全日制	普通科	6/7/7	3	20,323 m ²	S24	T11 市立第二高女 H13 類型導入
神戸西	全日制	普通科	5/6/6	3	27,284 m ²	S38	S23 市立西神高 H14 類型導入
兵庫商業	全日制	商業科 ----- 国際経済科	5/5/5 1/1/1	1,2,3 1,2,3	38,836 m ²	S30 ----- H 7	S 3 私立北神商業
科学技術	全日制	機械工学 ----- 電気情報工学 ----- 都市工学 ----- 科学工学	3/3/0 3/3/0 2/2/0 2/2/0	全 県	40,414 m ²	H16	S38 市立御影工業 S55 市立神戸工業
御影工業	全日制	電気科 ----- 電子科 ----- 工業化学科 ----- 土木科	0/0/2 0/0/1 0/0/1 0/0/1	全 県 全 県 全 県 全 県	科学技術と 併置	S38 ----- S38 ----- S38	S13 市立松野実業
		電気科	0/0/2/2	全 県		S38	
	全日制	機械科 ----- 交通工学科 ----- インテリア科	0/0/3 0/0/1 0/0/1	全 県 全 県 全 県	科学技術と 併置	S55 ----- H 6 ----- S55	
摩耶兵庫	定時制	普通科	4/4/4/4	全 県	3,614 m ²	S45	S18 市立第二中学
楠	定時制	普通科	3/3/3/3	全 県	湊川中と 共用	S24	S18 市立第二女子商業
神戸工科	定時制	工業技術科	4/4/0/0	全 県	科学技術と 併置	H16	S38 市立御影工業 S55 市立長田工業
長田工業	定時制	機械科 ----- 電気科	0/0/2/2 0/0/1/1	全 県 全 県	神戸工科と 併置	S55 ----- S55	S15 松野実業第二本科

計14校(全日制9校、定時制5校)

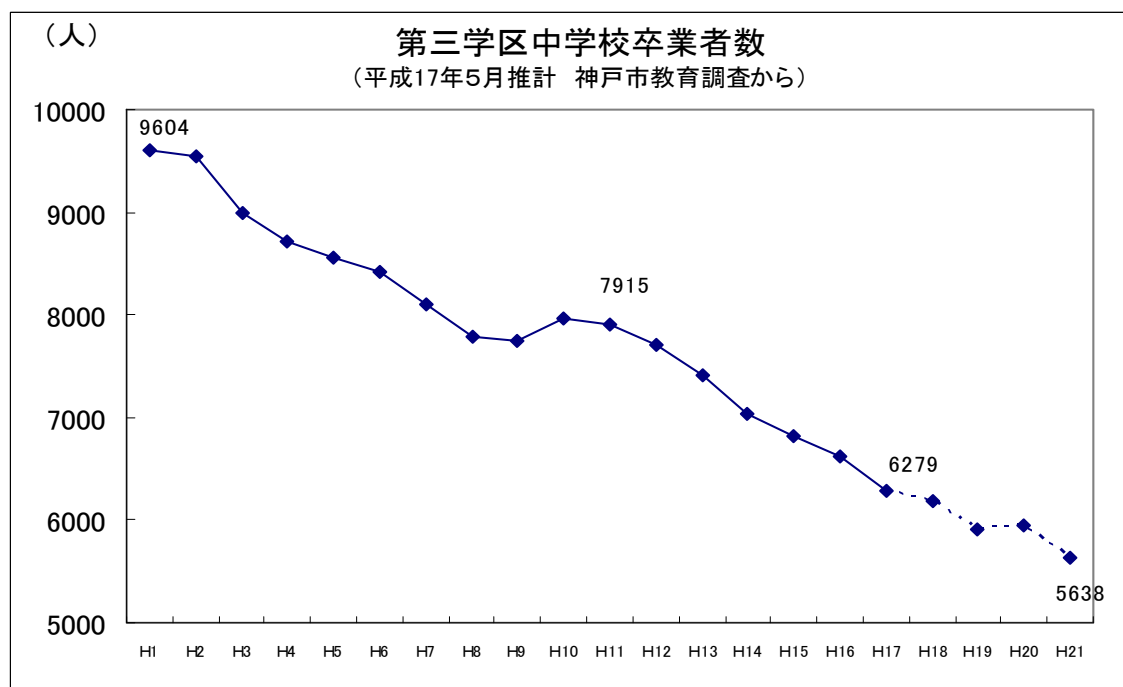
* 御影工業(全日制)・神戸工業 平成 17 年度末廃止予定 → 12校

* 御影工業(定時制)・長田工業 平成 18 年度末廃止予定 → 10校

③ 第三学区の県立高校（全日制）の概要（平成17年度）

学 校 名	学 科	クラス数 (1/2/3)	学 区	校地面積	設 置
神戸商業	商業科	5/6/6	1,2,3	36,707㎡	M11
	情報科	1/1/1	全県		S61
	会計科	1/1/1	全県		S61
長田	普通科	8/9/9	3	55,335㎡	T9
星陵	普通科	8/9/9	3	50,948㎡	S16
北須磨	普通科(単位制)	7/7/7	3	44,820㎡	S47
舞子	普通科	6/7/7	3	33,035㎡	S49
	環境防災科	1/1/1	全県		H14
伊川谷	普通科	7/8/8	3	37,162㎡	S51
須磨東	普通科	8/8/9	3	51,233㎡	S53
須磨友が丘	総合学科	7/7/7	3	38,872㎡	S58
神戸高塚	普通科	8/8/9	3	40,006㎡	S59
伊川谷北	普通科	8/8/9	3	45,500㎡	S61

④ 第三学区中学卒業生数推計



⑤ 須磨高校・神戸西高校の概要

学校名	須磨高校				神戸西高校			
所在地	神戸市須磨区若木町4丁目3番1号				神戸市西区平野町慶明字宮山183			
沿革概略	T11 神戸市立第二高等女学校として設立 T12 楠木町6丁目に新築校舎(現神大医) S19 灘区徳井楠ヶ丘に移転(現親和女子高) S23 神戸市立楠ヶ丘高等学校と校名変更 S24 神戸市立須磨高等学校と校名変更 S27 家庭科(被服課程)を設置 S30 現在地へ移転 S50 家庭科(被服課程)廃止				S23 神戸市立西神高等学校農業科(定時制) ・家庭科(定時制)設置 S36 現在地に新校舎建設移転 S38 神戸市立神戸西高等学校に改称し、全 日制普通科設置 S40 全日制に園芸科を設置 S41 定時制課程廃止 S51 園芸科廃止			
校地面積 (延べ床)	20,323 m ² (6,982 m ²)				27,284 m ² (5,690 m ²) (借地 8,563 m ² を含む)			
グラウンド面積	10,300 m ²				10,000 m ²			
築年数	50 年				39 年			
H17 年度の クラス数 (1/2/3)	20 クラス (6/7/7)				17 クラス (5/6/6)			
生徒数 (H17.5.1)	779 名 男 305 名 (39%) 女 474 名 (61%)				651 名 男 352 名 (54%) 女 299 名 (46%)			
通 学	山陽電鉄月見山駅→徒歩 〃 東須磨駅→徒歩				明石駅→バス 西神中央駅→バス			
特 色 (類 型)	H13 年から 3 類型設置 「人文」「国際コミュニケーション」 「情報・環境」				H14 年から 4 類型設置 「医療福祉」「体育福祉」「人文科学」 「情報経営 (H.17 より廃止)」			
地域連携等	・地域清掃活動 ・ブリスベン市(オーストラリア)からの留学生の受け入れ				・養護学校等との福祉交流 ・「看護体験」「福祉施設体験」「職場体験」実習			
部活動	入部率 56.1% (H17.5)				入部率 54.8% (H17.5)			
一般入試 倍率 (特色選抜)	H17 年度		H16 年度		H17 年度		H16 年度	
	1.29 (3.50)		1.14 (2.25)		1.25 (4.35)		1.03 (2.92)	
進路状況 (H16 年度)	四大 ・短大	専門学校	就職	その他	四大 ・短大	専門学校	就職	その他
	39%	24%	12%	25%	29%	32%	31%	8%

(進路状況は進路流動状況調査 H17.5.1 より)

⑥ 須磨高校・神戸西高校における類型選択の現状

類型は2年生より実施している

<須磨高校>

年度	学級数	2年 在籍	人文	国際コミュニ ケーション	情報・環境
			人 数 (%)	人 数 (%)	人 数 (%)
H14	8	310	150 (48.4)	35 (11.3)	125 (40.3)
H15	7	270	127 (47.0)	24 (8.9)	119 (44.1)
H16	7	268	54 (20.1)	57 (21.3)	157 (58.6)
H17	7	272	169 (62.1)	23 (8.5)	80 (29.4)

<神戸西高校>

年度	学級数	2年 在籍	医療福祉	体育福祉	人文科学	情報経営
			人 数 (%)	人 数 (%)	人 数 (%)	人 数 (%)
H15	6	200	29 (14.5)	37 (18.5)	83 (41.5)	51 (25.5)
H16	6	212	37 (17.5)	35 (16.5)	118 (55.7)	22 (10.4)
H17	6	233	34 (14.6)	37 (15.9)	162 (69.5)	平成17年より廃止

⑦ 普通科・単位制（普通科）・総合学科の比較表

学科形態		普通科	単位制（普通科）	総合学科
中心となる教育		普通教育		普通教育と専門教育
学年制・単位制		学年制	単位制	
特色化		類型	自由な科目選択	専門科目や系列
選択科目等		選択科目は少ない	選択科目が多く自分の時間割表を作る	
高校 入 試	推薦入試 特色選抜	特色選抜 10% (第三学区) ただし、H18年度 入試より 15%に変更	推薦入試 50% (県下全域)	推薦入試 50% (県下全域)
	学力検査	複数志願選抜	単独選抜	単独選抜

⑧ <つながる学校>の取り組み例

新高校のコンセプト<人・社会・希望につながる学校>を実現するための教育内容の具体的な取り組み例。

1. 進路につながる

- ・ 朝の時間を活用し、学力向上や落ち着いた学校文化を育てる（「朝の読書」など）
- ・ 進路実現のための支援体制（補習等の細やかな対応・自習室の充実など）
- ・ 学力充実のための少人数授業や習熟度別授業、個に応じた指導
- ・ 7時間目の授業や土曜日の活用
- ・ 授業時数確保のための2学期制

2. 人と地域につながる

- ・ 体験・実習・ボランティア活動への積極的な取り組み・まちづくりへの参画
- ・ 近隣教育機関との連携
- ・ 地域の施設などとの連携（福祉や体育などで）
- ・ 地域の核となる学校として図書館など施設の開放や公開講座による地域との交流
- ・ 部活動の活性化と地域との連携
- ・ 地域への情報発信

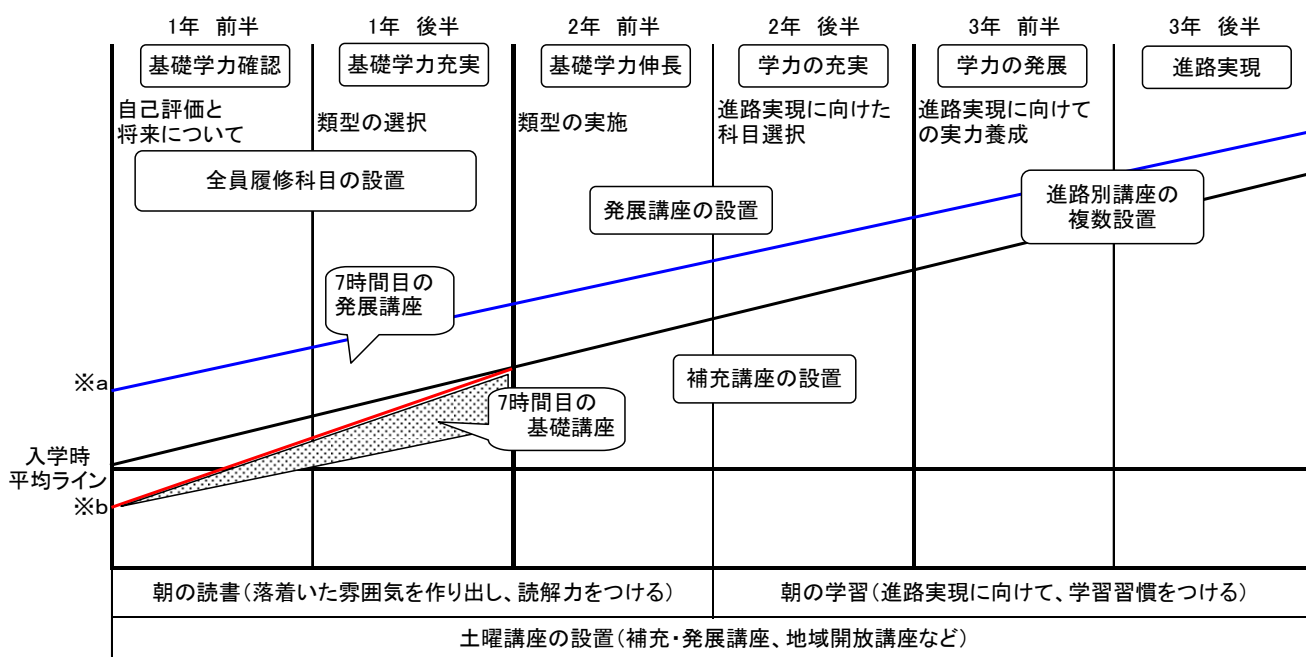
3. 社会につながる

- ・ 小・中学校での学習をさらに発展・充実させるキャリア教育の充実
- ・ 医療産業都市構想や観光交流都市の推進、ユニバーサル社会の実現等、神戸市の施策に関する学習

4. 世界につながる

- ・ 留学生の受け入れや姉妹校提携による異文化交流
- ・ 海外研修による国際交流の推進
- ・ インターネットなどのメディアによる国際交流

⑨ 学力定着に向けた3年間の流れ(例)～学力定着プラン



⑩ 第三学区市立高校基本計画検討会設置要綱

平成 17 年 9 月 21 日 設置

(目的)

第 1 条 神戸第三学区における市立高校改革について、諸課題および基本計画概要等を検討するため、第三学区市立高校基本計画検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

(組織)

第 2 条 検討会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 須磨高校教頭
- (3) 神戸西高校教頭
- (4) 須磨高校教員代表
- (5) 神戸西高校教員代表
- (6) 市立中学校教員代表
- (7) 行政関係者

(座長)

第 3 条 検討会に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選により定める。
- 3 座長は、検討会を総理し、会議の議長となる。
- 4 座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長が指名する委員が、その職務を代理する。

(期間)

第 4 条 検討会の設置期間は、平成 18 年 3 月 31 日までとする。ただし、座長が必要と認めた場合は、期間を延長することができる。

(会議)

第 5 条 検討会は、座長が招集する。

- 2 検討会は、委員の過半数の出席がなければ、開くことができない。
- 3 座長が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。
- 4 会議は原則公開とするが、検討会の決するところにより非公開とすることができる。

(作業部会の設置)

第 6 条 検討会を効果的に運営するために、作業部会を置くことができる。

(庶務)

第 7 条 検討会の庶務は、教育委員会事務局総務部学校再開発・振興室において処理する。

(雑則)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営等に関して必要な事項は、座長が会議に諮って別に定める。

附 則

この要綱は、平成 17 年 9 月 21 日から施行する。

⑪ 第三学区市立高校基本計画検討会 委員名簿

(学識経験者)

大 脇 康 弘 大阪教育大学教授

加治佐 哲 也 兵庫教育大学教授

(高等学校)

木 津 英 也 須磨高等学校教頭

前 田 和 宏 神戸西高等学校教頭

今 道 正 須磨高等学校教諭

直 井 裕 明 須磨高等学校教諭

吉 田 彰 須磨高等学校教諭

井 上 裕美子 神戸西高等学校教諭

岸 田 容司郎 神戸西高等学校教諭

小 南 扇四郎 神戸西高等学校教諭

(中学校)

奥 健 治 垂水中中学校教諭

前 田 達 史 多聞東中学校教諭

(教育委員会事務局)

幡 中 光 榮 参事（学校再編担当）

前 田 一 夫 指導部指導課首席指導主事
(兼) 総務部学校再開発・振興室首席指導主事

(以上 14 名)

⑫ 第三学区市立高校基本計画検討会の活動記録

基本計画検討会

	開催日	場 所	主 な 検 討 内 容
第 1 回	H17. 9. 21	KEC701	高校教育改革の動向と両校の現状
第 2 回	H17. 10. 24	KEC701	類型の現状と課題
第 3 回	H17. 12. 2	KEC701	新高校の基本的な考え方①
第 4 回	H18. 2. 20	KEC701	新高校の基本的な考え方②
第 5 回	H18. 3. 6	KEC701	まとめ

KEC:神戸市総合教育センター

作業部会

	開催日	場 所	主 な 検 討 内 容
第 1 回	H17. 11. 10	KEC805	新高校の基本的な考え方①
第 2 回	H17. 11. 22	KEC406	新高校の基本的な考え方②
第 3 回	H17. 12. 1	KEC705	学科・システム等の枠組み①
第 4 回	H17. 12. 7	KEC810	学科・システム等の枠組み②
第 5 回	H17. 12. 26	KEC705	学科・システム等の枠組み③
第 6 回	H18. 1. 10	KEC810	学科・システム等の枠組み④
第 7 回	H18. 1. 12	KEC810	まとめ①
第 8 回	H18. 2. 9	須磨高校	まとめ②

作業部会メンバー

須磨高校	吉田 彰	清家 豊
神戸西高校	岸田 容司郎	山根 修
学校再開発・振興室	大畑 守男	藤原 三喜男

先進校の視察

H18. 1. 26 京都府立西宇治高校
H18. 1. 31 大阪府立槻の木高校
H18. 1. 31 大阪府立今宮高校

第三学区市立高校基本計画検討会報告書

平成 18 年 3 月発行

第三学区市立高校基本計画検討会

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6 丁目 5 番 1 号

神戸市教育委員会事務局総務部学校再開発・振興室内

第三学区市立高校基本計画検討会事務局

TEL (078) 322-5797